

第3回津山市水道事業経営審議会 議事要旨

【開催日時】 令和5年7月6日 13:30~15:35

【開催場所】 津山市役所2階 第1委員会室

【議 題】 財政基盤の健全化に向けた議論①

【意見・質疑等（要旨）】

（委員）

余剰金として46億円程度の資金で、更新事業が170億円かかるという数字もあったが国土強靱化に係る補助金等を有効に活用できているか。

（事務局）

国土強靱化に係る補助金・交付金は、地震の緊急遮断弁等、何箇所か実績があり、今後も有効に活用していく。

（委員）

支出の営業費用、「原水および浄水費用」とは、岡山県から水を買っているということなのか。原水費とは何か。

（事務局）

原水費は、浄水場で川の水をとる費用です。岡山県広域水道企業団からは、上水を買っている。

（委員）

料金算定にあたって、直近3年~5年の収益予測を見て料金を決めるという理解で良いか。

（事務局）

その通りです。

（委員）

令和8年からの収益の悪化、人口の減少、動力費等の高騰で収益が悪化するのに加え、令和14年ぐらいから内部留保資金が枯渇していくという理解で良いか。

（事務局）

その通りです。

（委員）

内部留保の枯渇について、減価償却は、毎年積み上げて、更新の時にそのお金を使うという理解をしているが、そのお金がもうすでにないということか。

市民レベルでは、「作った時に更新費用は予測可能ではないのか。」という疑問があると思う。なぜ令和16年以降急激に（内部留保資金残高が）悪化するのか。

（事務局）

平成16年度の市町村合併、平成27年度の簡易水道統合により更新施設数、更新管路延長が増加した。令和16年以降の急激な落ち込みは、浄水場施設の大規模更新が重なるため

である。

(委員長)

令和16年以降の更新が増えているというのは、更新のサイクルを見ていく必要があるのではないか。

(事務局)

電気、機械設備等それぞれ耐用年数のサイクルが異なるため、平準化が難しい。また浄水場施設の大規模更新等は、ある程度タイミングを併せて一気に行う必要があり、その時期が令和16から18年度に来ている。

(委員長)

過去にやった設備更新の耐用年数から計算するとこの時期に更新が必要ということですね。この経緯を今後説明してください。

(委員)

浄水場を県と共同で運営しているので、企業団から水道水を買わないといけない割り当てがあると思う。企業団と水道局の関係性について、次回、もう少しわかりやすくを教えてください。

(委員長)

次回、すこし振り返りの時間を取り、事務局にわかりやすく簡潔に説明していただきたい。